

遊戯の指導の経験

東京女高師幼稚園

岡崎修子

一

遊戯についてのむづかしいことは、戸倉先生の實際や御話の中から伺うことにしまして私はここで何も知らずに入つてきた幼児の世界のほんの一寸した経験を御話してみたいと思ひます。長年子供について研究しておられる方々にとつては「本當にありふれたこと」であると思ひますが勉強してゆく材料を、といひみで述べさせて頂きます。

本當に不用意に幼稚園に來た私は、一年目は皆さんのしていらつしやる遊戯を一緒に覚え、又まわりの先生方のなさるお遊戯とか、御子さんを相手として教えられる様子など拜見して「成程そうすればよいのか」と段々勝手が分つてきました。それと同時に、御子さんを本當に知らない私のするお遊戯そのものゝ感じ、及び教え方（あえて教え方、というように出來上つたものだけを教えていたのです）それが大人つぽく御子さんの様子としつくりしない事が氣になつてきました。そこで對象をよく知らなければこの感じから抜け切ることは出來ないと思ひ、拍手の仕方、手のあげ方等々、よく觀

察する事の大切なことをひし／＼と感じました。それと同じで細かいことですが殊更に子供らしさをよそおふ必要もありませんが、女學生がダンスをする時のようにすましてしていただのでは御子さんにピンとこないと思われれます。

幼稚園の先生はよく顔の表情で、たしなめたり、共に喜んだりし、子供に話しかけたりすることがより大きな効果をあげることがありますが、これとは又一寸ちがうにしても、動作の持つ表情といふますが、これも大切なことだと思ひます。つまりいゝかえれば子供と同じように楽しくにこやかにやれたらと思ひます。

此のように何も知らなかつた私が遊戯を覚え、唱歌を覚えお子さんと一緒に手足をうごかしているうちにフト氣がついた事がありました。それはお子さんもめんくらつたらしいのです。圓になつてするお遊戯を幾つか覚えてからそれを次々としておりますと、或るものは右の方に行く事から始まり或るものは左の方にゆくことから始まり、その度に「これはこつちをむいて」「今度はこつちへ」と注意しつつ、「おか

「しいな」と思いつながらも、「これはこう作られたものだから」ということのために、暫くこれをやつておりました。そこで進み方のちがうお遊戯というものは、作られた先生方が、其の時の氣分に依つてきめられるので、これはなるべく圓心に對して左の方にゆくようにして頂いた方が音楽との關係もあつてよいのではないかと思われます。

戸倉先生もよくこう仰言います。「子供を知つてゐるのは幼稚園の先生方が一番なのだらう、子供に出来るようになるおしめてみて下さる」

と、そこで私はわずらわしさ、及び音楽の強壓部との關係を考へて、すべて左の方に進むのにきめてしまいました。その結果としましては、ごちや／＼する事がなく、のんびりをやつていたようでした。それでなければ圓になつてするばかりでなく、それをくずして自由な方向にいつてするようになります。たとへば、最近の時々このようにしてみますが前にかえたり心配がないせいも、動作は大きくやるようです。これで面白いと思つたことは圓ではかりしていたものを自由體型にしてさせたとき、大きい組より小さい組の方がさせ易いことです。つまりお子さんの頭にも、これはこういう形です。という型が出来てしまつてゐるからでしょう。

その反面、圓でしてゐる時は、皆でするものと感ずるのか、抜ける人が割にないので、自由體型にしますと、すつと抜けてしまつたり、騒ぎたい人達は皆のしてゐる間をふさげてまわつたりする人が出るようになりました。

又自由に、といふと、かえつてかたまつてしまつて使う場所が狭くなる事が多いので「あつちの方はあんなに歩いてゐるわ」とか注意をむけますと、馴れるに従つて其の時は離れてする事について努力して居る様子がみられます。

このように幾分形をくずして自由にはしておりましたが馴れてくるに従つて前後に何の關係も無いものをブラ／＼とする事がもの足りなく感じられてきました。

そこでお遊戯の時間を或る目的をもつた一連のものと考え、今迄した遊戯の中から、その目的に關係のあるものを選んで一つのものとしてみました。

例を選足にとつてみますと、子供とこれから何を、と、いうことを話し合つておいて朝おきる所からでも一連のものとしてすることが出来ます。たゞこうしますと先生お一人で話しをしてゐるような形になつてしまつて一寸てれくさいような感じがしますが、お子さんの方は案外その氣分になつて面白くすることが出来ます。ですが年中こうしたようにすることは前のやり方が、「遊戯の時間」という型が出来てしまふのと同じくかんげきの無いものになつてしまふので、適當な材料がある時によく計畫をたてゝおいてするとよいと思ひます。これは又遊戯の時間ばかりの關係でなく、保育室へかえつてからも關係づける事が出来て面白く思ひます。

二一

ここで特別に、律動遊戯、唱歌遊戯について分けて考へて

いふこと、経験した事などについて話してみたいと思ひます。

律動 遊戯

歌詩を覚える苦勞がありませんし、曲そのものが主體であるため、曲にそれ／＼特長があり、唱歌などしたあとで、これに依り手をたゞいたり等して耳ならししておき、遊戯の折にすぐ出来、唱歌遊戯より取りつき易いので、此の四月からの新しい組に試みに、律動のものも多くしてみました。

(お友達、小鳥、蝶々、汽車、海、ボートレース、おふね、ものまね、のぞきっこ、大工さん、みちおしん等) 子供の生活に關係の多いもの、比較的觀察等の出来ているものを材料にしました。前にいいましたように、唱歌のあとでひいて、それに近いような動作を色々にかえて腰掛けたまゝでしてみます。これは割合に面白そうにいたします。そこで今迄の御子さんと違ふと感じたことは、唱歌をするとき、皆が餘りいやがらずに、そうかといつて義務的にするといつた感じではなく、皆がよつてくることです。それは丁度今迄のじつとしていなくてはならない、という退屈さから解放された、という感じですよ。

その他曲がもとになりますので、よく覚えてあとには動作も一回ごとにきちんと區切をつけるようにしました。それには伴奏の仕方が大變關係すると思ひますので、一回ごとに終止の感じを出すようにし、ピアノのひき方でひつばつてみま

したら、口でいうよりよくつかめたようでした。

伴奏のことが出ましたのでそのことについて申しますと、正しく上手に弾くなんていう事は勿論そうありたい事なので別にして、ここでは、伴奏は人にもらうより子供のいろ／＼の事をしつてゐる先生がした方がよいということを特に申し上げたいと思ひます。

唱歌 遊戯

前にいつたように断片的組合わせになり面白くないから餘りしなくてよいか、といひますと、私はこれも又大切だと思ひます。

それは、お子さんは創作的意圖を多分に持つてゐるとはいへ、私の経験では、新らしく入つてきたお子さんは、こちらがやり易いように、と思つて「何でもすきなように」と云つた場合は、かえつてどうしたらよいか分らない、といつたようすで、ついにはぬけてしまふ人が多くなり、お遊戯をする事が楽しくなくなるらしいのです。それは色々な経験も少く餘り物事をきをつけてみていなかつたために出来ないのであらうと思ひます。そこで或る程度形の整つたものをして毀々と経験をさせてからの方が私はよいと思ひます。

本當に新學期になつて今更の如く驚いたのですが、新らしく入つて来た御子さんは大部分が皆と違ふことを知りません。本をよむ人数が多すぎ、積木も出来なない、というような場合、私は皆で外に出て、一緒に出来る「かごめ」とか「花

「いちもんめ」「さくら」「汽車ごっこ」等で遊びます。幸にこれには歌がついておりますので歌いながらしていますと、自然に歌詞もふしも覚えてしまいます。こうした遊びが小さい組には一番よいように思います。今年入つて来た私の組の方たちは、「かごめ」がとでも面白かつたとみえまして、入園して一週間ほどたつてやつと馴れたかしらと思われるときに既に五六人がさそい合つて自分たちで始めていましたので本當に驚きました。

そこでこういうように遊戯室でも又外でもやりたいようにやつておきますと必ずそれに入つてこない方が四、五人は居ります。皆で遊戯室にゆく場合など、何人はお砂場でトンネル建設中だつたり、黒板を一人でかゝえて大きな繪を書いていたりする場合、あとで淋しがると思ひました。一寸さそつてみます。けれど必ずはねつけられます。その時は「お遊戯室にゆきますから」と、ことわつて、近所の先生方にお願ひしてゆきますが、又お子さん自身に責任を持たせたりしてみます。

又どうしても一緒に居なくてはあぶないような方は特別に名指して呼びかけてやることにより、うれいという氣が起るのか一緒に来る事が多いようです。

遊戯室に行つた人達は全體一緒にするのが普通ですが、男の御子さんは恥かしい、てれくさい、つまらない、とかの理由で入つて来ない人が出れます。すると自分も〜とぬける人が出れますので、そうなつた場合は、計畫も變えて、其の

組の人たちの一番好んでするものに變えてしまつて皆でし、それから又前のつゞきにいつたりする事があります。すると案外ばら〜にならずにすむ事もありますが、その時の状態によつては、何人か一緒にパツとにげ出されてしまふ事も度々です。

今度は今よくいわれる創作ということですが、前から何度もいつた事ですが、その材料が生活に近いものでよく知つてゐるものでなくてはよいものは出来ないと思ひます。計畫が出来たらつとめてそういう雰囲気にしてやるとよいと思ひます。

先日「幼児教育」に書きましたが、私がいまなり「パツタになりましょう」といつてなつた時と、パツタをつかまえて遊んでからなつてみたときでは全然その表わし方の違うのにはびつくりしたのでした。

此のように、觀察したら、次には自由表現の段階にゆくと思ひますが、兎角吾々が、「何々を好きなように」といつたところで、私達の心の底には大人的な立派なものを期待する心があります。折角お子さんが小さい頭をひねつて表わしたものをみのがして、とかく「こういうようにならないかしら」「こんな風にもなるわね」と大人的なものを與えてしまひ易いのです。これをやつてしまふと形は一應整つたようにみえますが、ただそれだけに終り、それから自身で發展してゆく事がむずかしいようです。時々私もこれをやつてしまつて、ハツとして「好きなようにね」といゝかえませんが一度こ

うなると仲々自分の思うようにはしないものです。

うたでも同じでしょうが、本當の創作はこういうきまつた時間にあるのではなく一日を通じて何時表われるか分らないものなのでしょう。これをとり上げうまくまとめてあげるのが私達の大切な仕事の一つだと思ひます。

スキツプにつきましては、お子さんはとても好きですし、私は又、日常の生活と何か關係があるような氣がして、お遊戯の時間はもとより、普通の時でも、時間をかけ相當重視してやつております。ひとくみのお子さんを見ていますと、それが大體三段階位に分けられると思ひます。

(一) は、音楽を聞く事より、音に合わなくても何でも腰をおとして小走りに走る。

(二) は、前よりいくらか進歩して、ジャンプをすることが加わつて、片足を片足にひきつけ半分出來上つたスキツプのような型。

(三) は、やる様子は色々あるにしても、始めから出来るもの。

(一) は稀である。といつてよいので、問題は(二)から(三)になるまでですが、大きい人たちがいますので、一々を分解して教えることもするにははしませんが、その前に、それはそれで、ほめておいてあせらず或る時期がくるまで待ちます。何となく變つてきそうなる足の運びになつてきた時に、手をとり片足づつゆつくりと足のもつてゆき方を一緒にしてみます。その折は恥かしがつたり、ゆつくりする事がめんど

うであつたりする爲、よい加減にしてしまふこともありすが、其の感覺というものはどこかに残つてゐるよ様に思われます。そして暫くすると大抵は出來るよになるよです。

(三)の方はそれでよいのですが、足のあげ方が悪いために前にころびそうになる方、自分の膝のもつ彈性を知らず伸ばしきりにしてするために窮屈そうな方等、くせのある方には、一番大切なことを一つだけ云つてなおりますよにしています。これらはともかく、もつと氣になるのは、よく出來、相當スピードを持つてゐる方でも、それから受ける感じが下品な方があります。それも腕の振り方や身體の動かし方による癖からそう感じられるのだと思ひますので、きれいな方をよくみせたりして極力なおすよにしています。

以上で私の小さい經驗によるお話しを終りにいたします。

(幼稚園協會夏期講習會で)

〔三二頁から〕

ままに生きる譯ではなく、夫々の道德、信仰に統禦された生活を送らねばならない。而してこの道德に生きる時に動物と異つた人間らしい姿がみられる。

國家のために妻子を捧げる代りに、社會正義のために、或は、神のため、眞理のために吾子を捧げねばならないであらう。獨子イサクを燔祭として献げるアブラハムの信仰が要求され、ゴーゴリの母の態度が要求されるであらう。

かゝる試練、心的葛藤を経て母は崇高な人格に向上する。